

航空宇宙地上機材 Aerospace Ground Equipment

January 12, 2018

By Senior Airman Donald Hudson
374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋の主要な戦力展開の拠点として、横田基地の使命は航空兵力を提供することだ。その航空兵力は、地上兵力なしには存在しない。

横田のC-130Jスーパーハキュリーズが一時間飛行するために、地上での準備や整備に何時間も時間を費やす。第374整備中隊の航空宇宙地上機材小隊は、滑走路で使用する発電機、照明灯、空調装置、航空機のジャッキなど、さまざまな機械を必要時に使用できるよう態勢を整えている。

「我々の使命は、航空機動軍や一時的な任務の航空機を含む横田基地に飛来する全ての航空機に機材の支援を提供することだ。また同小隊は、上層司令部の司令に応じ、派遣地用の機材も準備する」と第374整備中隊、航空宇宙地上機材小隊長のダニエル・J・シペラ曹長は話す。

横田があらゆる航空機の運用を可能にしているのは、長い滑走路があるからだけでなく、航空宇宙地上機材小隊が、400以上の地上機材を管理しているからだ。それらの多くは特定航空機用機材で、いつでも使えるよう準備しておかなくてはならない。機材は、横田が大小どの大きさの航空機をも支援し、離発着するさまざまな機種を支援する一翼を担っている。

大量の機材の管理と横田の過密な機体運用により、同小隊の隊員たちの手が休まる時はない。

第374整備中隊航空宇宙地上機材担当のコディー・ノエル一等空兵によると、一つの装置を修理するのに、状況に応じて数時間から数日かかるという。また、すべての機材が正常に作動するよう、機材を個別に定期的に点検し、保守整備を行わなければならない。

ここでは、1400万ドル相当以上の機材が空兵49人によって管理されている。小隊は、3つの部署に分かれ、検査部は保守整備を行い、整備部は飛行中に誤動作した装置を修理し、また必要に応じて大きな修理を請け負う。サービスピックアップ・配達部は滑走路に機材を置く作業と整備・点検が必要な機材を入手する。

航空宇宙地上機材小隊の空兵は、機械整備からチームワークで滑走路で航空機の運用を可能にするに至るまで、ありとあらゆる作業を行う。

「同小隊では、あらゆる種類の機械の調整や修理を行うことができる。色々な種類の機材について学ぶことができるのは、分からないことがあっても、そばで分かる誰かが進んで教えるからだ」とノエル一等空兵は言う。

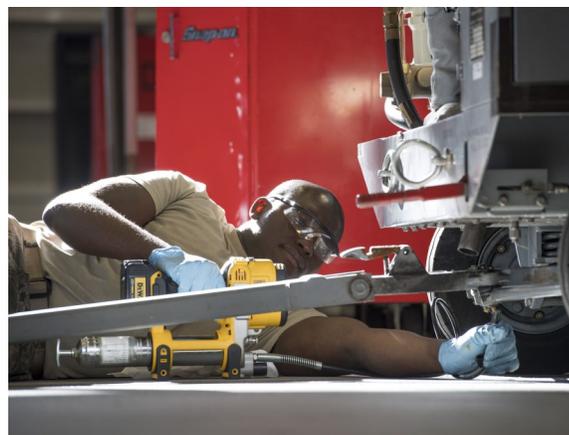
航空宇宙地上機材小隊の空兵は、自らの働きがどう基地の使命に寄与しているかを、日々、目の当たりにする。

「故障して機材が交換されるまで航空機が離陸できない時、飛び立てるよう復旧させるため迅速に作業に取り掛からなくてはならない。我々の働きによってその航空機が離陸できた時の達成を目の当たりにできた時は嬉しく思う」とノエル一等空兵は話す。

航空宇宙地上機材小隊の空兵の献身的な働きにより、横田の滑走路には、米空軍の主要な太平洋のハブに着陸するどんな航空機の運用も支援できる態勢が整っている。



ユニバーサル・ジャッキ・テスターに60トンのジャッキをはめる作業で誘導する第374整備中隊、航空宇宙地上機材小隊の技師ソマー・ラックス一等空兵。60トンのジャッキは、C-17グローブマスターのような大型機用に作られており、安全性と即応態勢を整えるため、航空宇宙地上機材小隊による点検が毎年必須となっている。



発電機の定期保守整備を行う第374整備中隊、航空宇宙地上機材小隊の技師。同小隊は、横田がどんな航空機をも整備・修理できるよう400以上の機材を管理し、手が休まる時がない。